

◆ 今週のコメント

- ・ A型肝炎の報告が1例あり、本年3例目となっています。全国の第24週までの累積報告数は246例で、既に、平成21年の1年間の累積報告数(115例)の2倍以上となっています。特に報告数の著しい増加が認められた第10～23週の間には劇症肝炎が5例(うち死亡1例)報告されています。京都市衛生環境研究所では、感染源の共通性を見出すため、ウイルス株の解析を行っています。医療機関の皆様には、これまでにも御協力いただいているところですが、届出の際に、糞便検体の提供をお願い致します。
- ・ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例あり、本年7例目となっています。7例の内訳は、O157VT1V T2が5例、O157毒素型不明が1例、O26VT1が1例です。全国では、第22週以降報告数が急増していますので、御注意ください。
- ・ 水痘の定点当たり報告数は、2.00(82例)で、先週より減少していますが、依然として過去5年平均値を上回っています。年齢階級別では、1歳と2歳が共に21例で、51.2%(42例)を占めています。
- ・ 流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、1.27(52例)で、先週に比べ増加しており、過去5年平均値を上回る状態が続いています。年齢階級別では、4歳(12例)、6歳(10例)の順に多く、4歳～6歳で57.7%(30例)を占めています。

◆ 今週のトピックス: <手足口病>

手足口病の定点当たり報告数は、1.80(74例)で、先週に比べ増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 7例】
- ・ 四類:A型肝炎 1例【1月以降の累積報告数 3例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.04	3
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	5.51	226
	② 水痘	2.00	82
	③ 手足口病	1.80	74
	④ 流行性耳下腺炎	1.27	52
	⑤ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.88	36
眼科	流行性角結膜炎	0.40	4

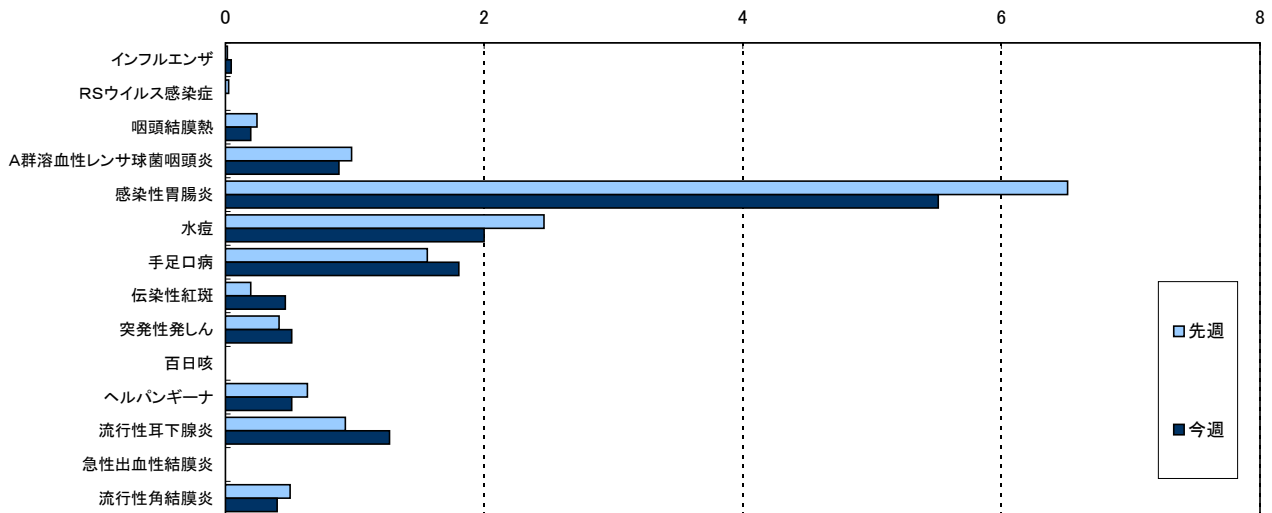
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <手足口病>

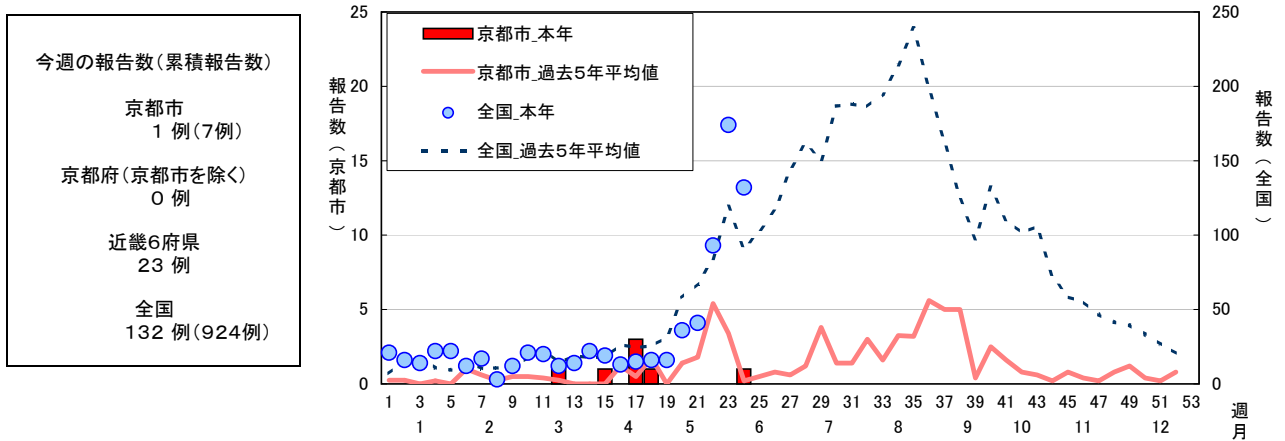
(注)京都市のデータは、平成22年6月24日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第24週)と先週(第23週)の定点当たり報告数の比較

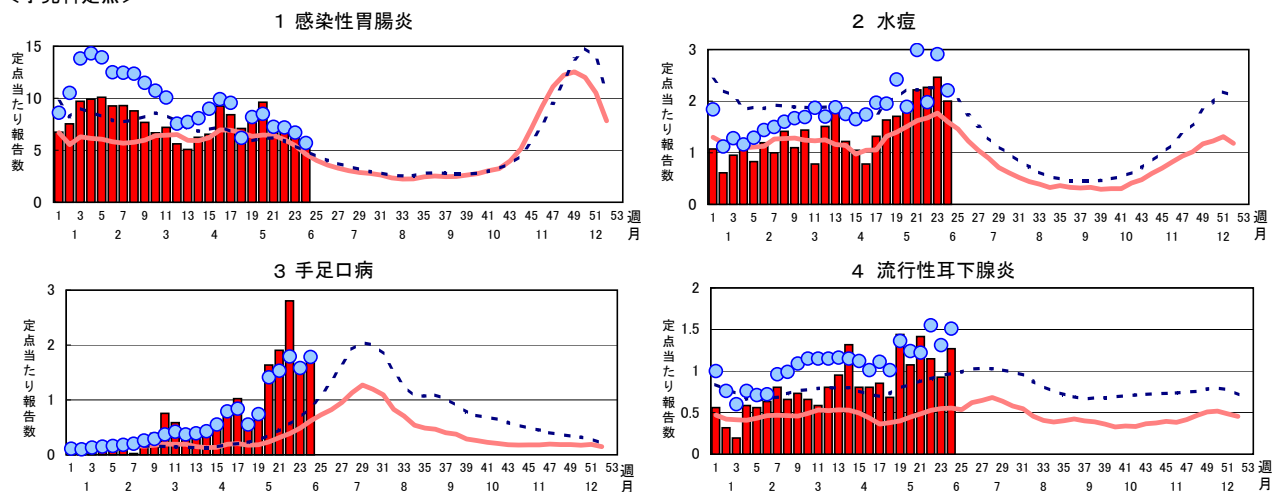


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

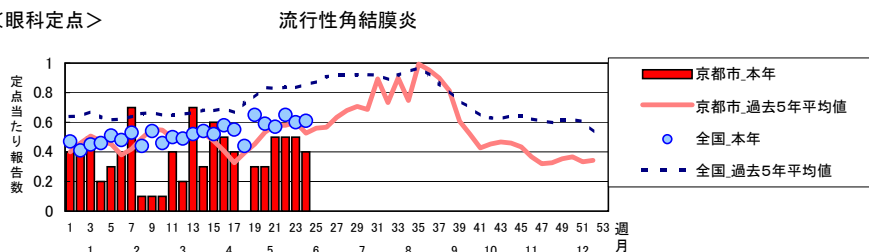


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第24週(6月14日～6月20日)トピックス: <手足口病>

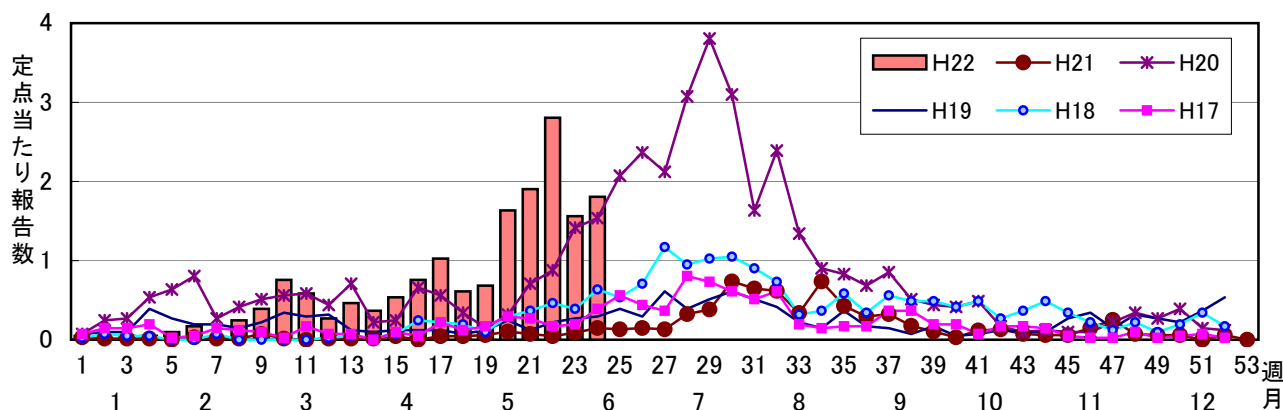
手足口病の定点当たり報告数は、1.80(74例)で、先週に比べ増加しています。

年齢階級別割合では、1歳が28.4%(21例)と最も多く、次いで4歳が16.2%(12例)、2歳、3歳が各13.5%(10例)となっており、1歳～4歳で71.6%を占めています。

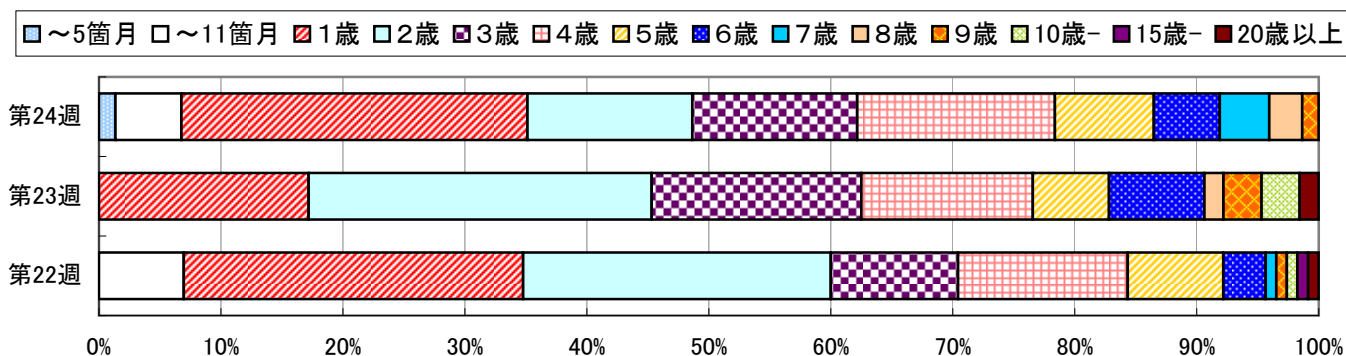
行政区別にみると、11行政区のうち、下京区を除く10行政区から報告があります。

原因ウイルスのなかで、エンテロウイルス71型(EV71)は、中枢神経合併症の発生率が他のウイルスに比べて高いと言われていますが、全国では、本年、手足口病の患者の方から分離されるウイルスの約70%をEV71が占めています。京都市衛生環境研究所においても、本年に入って、EV71を5例分離しています。ホームページに最新の病原体検出情報を掲載しましたのでご参照ください。(<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000072537.html>)

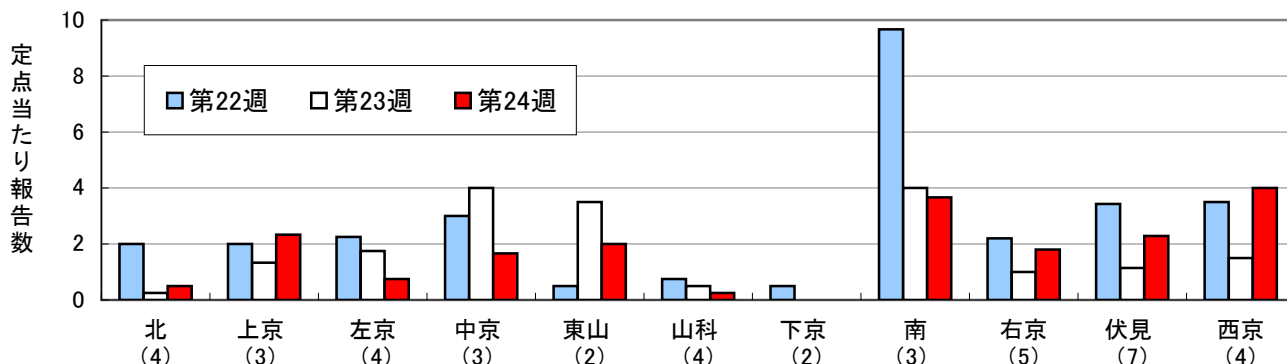
本市の定点当たり報告数の推移(平成17年～平成22年24週)



年齢階級別割合の推移



行政区別定点当たり報告数の推移



()内は、定点医療機関数